

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	喜璃夢		
○保護者評価実施期間	令和7年 6月 1日		令和6年 7月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和7年 6月 1日		令和6年 7月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障害種別も年齢も様々な集団構成(定員34名)で活動に取り組めること。支援者も多種多様で、子ども達の選択の幅が広がる。	活動に合わせて、チーム構成を考え、得意な子もそうでない子もお互いに助け合いながら、一つの事に取り組めるようにしている。	苦手感からできないと諦めてしまわないよう、活動内で一つでも「できた」など自信が持てる取り組みを続けていく。
2	対応する支援者が、老若男女それぞれのスタイルでアプローチをかけることができること。	若手は元気に体を動かし、ベテランは穏やかに心を動かすなど、1つの視点で分析するのではなく多角的な視点でアプローチをかけている。	それぞれの役割を持つことで、職員一人一人の意識が高まり、向上意欲につながる。その結果、子どもたちに安定した支援をかけられ、職員間の連携も高まっていく。
3	基本的な日常生活動作の向上を目指していること。	洗濯や掃除、洗い物などのスキルアップを目指したり、自分の物は自分で準備、片付けをしたりなど、少し見守りつつ一人一人の自立性を育てている。	職員がゆとりを持って接する。口頭指示だけでなく、視覚的支援をさらに強化させ、自分で気づいて行動する力へと導く。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	大きな集団は長所であり短所でもある。時には全員で取り組む活動も取り入れるが、小集団の設定や個別活動などでは職員体制の課題が出てくる。	個別のペースに寄り添いすぎると全体の活動時間の確保が難しくなることがある。	個別の指導を重視しながらも、職員間の連携、適切な集団編成を設定し、全体の流れを構成していく。 ※子ども達が好きな活動を選んで行動していく。
2	利用人数が多いため(定員34名)、連絡帳に細かい記載ができないこと。	子どもたちと直接関わる時間を大切にしているため、大まかな内容になる。	必要なことや連絡事項は、電話連絡や送迎時に伝える事を今後も続けていく。ホームページやグループLINEを活用して、活動のねらい、子どもたちの成長の姿を情報発信していく。
3	児童発達支援センターとの多機能型事業所のため、そこで利用していた子ども達が継続して利用したいとの希望があるが定員が限られていて、新規の利用希望に応えてあげられない。	毎年度、卒業する子どもたちが少なく、利用希望者が多い。受け入れは可能だが、送迎のご協力が必要である。	曜日や日数を調整し、希望を叶えられるように考えていく。 緊急時や対応にお困りの方には、寄り添えるような方法を検討させていただきたいと思っている。